

「いつ起こるか分からない土砂災害」

さぬき市立石田小学校 4年 山下 慶人 さん

最近、土砂災害のニュースをよく見ます。ぼくは、実さいに被害にあったことがなく、テレビで見たことしか分かりません。そこで、土砂災害について調べてみようと思いました。

土砂災害には三つ種類がありました。

一つ目は土石流です。これは谷や斜面に貯まった土、石、砂などが、梅雨や台風などの集中豪雨による水といっしょになって、一気に流れ出してくるのが土石流です。破壊力が大きく、また、速度も速いので大きな被害になるそうです。

二つ目は、地すべりです。地すべりは、ゆるやかな斜面において、地中の粘土そうなど、すべりやすい面が地下水のえいきょうなどで、ゆっくりと動き出すげんしょうです。一度に広いはんいが動くので、ひとたび発生すると、家や道路、鉄道、こう地などに大きい被害をおよぼしたり、川をせき止めて洪水などを引き起こすことがあるそうです。

三つ目は、がけ崩れです。地中にしみこんだ水分が土のていこう力を弱め、雨や地しんのえいきょうによって、急げきに斜面が崩れ落ちることをいいます。崩れ落ちるスピードも速いので、にげおくれる人も多く、なくなった人のわり合も高くなっているそうです。

日本は、災害が多い国とも言われています。ぼくの住んでいる香川県のか去十年の土砂災害発生件数は、二百二十五件もあります。全国で一番多かったのが新がた県で千件をこえていたのにおどろきました。では、日本ではなぜこんなにも土砂災害が起こりやすいのでしょうか。

日本の地形や気こうに、理由があるそうです。日本は、崩れやすい岩や土でできている山が多く、ほかの国にくらべて一度に雨がたくさんふることがあげられます。また、日本には流れの急な川が多いため、一気に流れてしまい洪水になりやすいのです。

ぼくの家のみわりには、田んぼがたくさんあります。これまでに、台風や大雨で、田んぼの岸が崩れたことがあったそうです。ぼくの家のはやくには山もあります。川もあります。ふだんは、自ぜんがいっばいでのだかないいところですが、もし、ものすごく大きな台風や、これまでにない大雨がふったらどうなるのでしょうか。川の水があふれて、洪水が起きたり、山が崩れて、土石流やがけ崩れが発生するかもしれません。さらに、土砂や大量の水がぼくの家まで流れてきたら、家が崩れてしまうかもしれません。それだけでなく、ぼくたちが命を落としてしまうかもしれないと考えると、すごくこわくて仕方ありません。

台風や大雨をぼくたちで止めることはできませんが、被害を小さくする対さくがあります。

山の斜面が崩れて、石や土砂がたまらないように、山に木を植えて崩れるのを防いだり、土石流を受け止めて、人の命や家を守る砂防えんていが土石流対さくの一つです。がけ崩れを防ぐためには、コンクリートでできたわくで斜面をおさえたり、土砂が崩れ出さないように、防ごさくを設置したりしています。地すべり対さくとして、地すべりの原因となる地下水を取りのぞき、雨を地面にしみこませないようにする工事も行われています。国では、いろいろな対さくがほかにもありますが、ぼくたちにできることは何か考えてみました。

ふだんから、ひなんできるようにじゅんびをしておくことが大切だと思います。例えば、ひなん場所をきめておく、きけんな場所をたしかめるなどです。そして、にげ方をおぼえておくことです。土砂の流れる方向に対して、直角ににげるようにしたらいいそうです。ぼくは、土砂災害について初めて知ったことがたくさんありました。知っておくこともすごく大事だと思います。これからは、調べて分かったことを生かしたいです。